

報告事項コ

平成29年度鳥取県教育研究大会の開催概要について

平成29年度鳥取県教育研究大会の開催概要について、別紙のとおり報告
します。

平成29年12月27日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

平成29年度鳥取県教育研究大会の開催概要について

高等学校課

1 趣旨

県教育委員会では、学ぶ力や豊かな人間性と社会性の育成を図るため、各園（所）・学校の取組への支援を進めている。

本研究大会では、鳥取県の「教育に関する大綱」に掲げる取組方針を踏まえ、基調講演、各校種における実践事例の発表等とおして、県内の幼児・児童・生徒の学びの質の向上、豊かな人間性や社会性の育成及び安全で、安心して通える園（所）・学校づくりの一層の推進を図る。

2 開催日時・会場

(1) 日時 平成29年11月29日（水） 午前10時から午後4時10分まで

(2) 会場 鳥取県立倉吉未来中心 小ホール 他

3 参加者

約250名（幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教職員、保護者、市町村教育委員会等の行政関係者（教育委員、指導主事等）等）

4 内容

(1) 報告

鳥取県の「教育に関する大綱」、平成29年度の鳥取県の取組

(2) 分科会

<分科会Ⅰ：授業改革>

○テーマ1

境港市英語教育の小小連携・小中連携について
～鳥取発「教科でつながるスクラム教育」英語教育強化モデル地域及び「小学校英語パワーアップ事業」の取組より～

- ・発表

境港市立外江小学校

- ・概要

英語教育推進連絡協議会の開催、Can-Doリストなどの指標の策定、授業の進め方や授業ツールを共有した授業改善、市内全小学校へのALTの派遣（毎週）等、地域で組織的に英語教育を推進した取組を発表。

- ・参加者の感想

英語教育の推進について先進的な取組を学び、来年度からの先行実施に生かしていきたいと感じた。小中連携、ALT配置等、地教委としてもよりよい形で進めることができるよう支援していきたい。



○テーマ 2

ICT 教育の推進～活用場面、BYOD の成果と課題、教育総合支援型アプリの活用～

・発表

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

・概要

情報科学科の生徒全員に iPad を導入し、特別支援学校との交流及び共同学習や教科学習等においてプレゼンテーションやアンケート、相互評価等の機能を効果的に活用した取組について発表。

・参加者の感想

iPad 導入にあたっての苦労や成果等がよく分かった。ICT の長所の一つは時間短縮だと思う。生み出された時間で生徒との会話の時間を大切にしたい。



アクティブ・ラーニングの推進

・発表

鳥取県立米子高等学校

・概要

アクティブ・ラーニングの校内推進に向けた「共通認識」「SMALL STEP」「AL の共通手法」「話し合える関係性」の 4 つの取組を発表。



<分科会Ⅱ：校種間連携>

○テーマ 1

幼保小連携の推進～幼児期に身に付けた力を小学校以降の「学び」につなぐ連携とは～

・発表

鳥取市立みたから保育園、北栄町立北条小学校、
日野町教育委員会事務局教育課

・概要

幼保小連絡会や接続期カリキュラムの作成、交流活動、保育・授業研究会等の連携を通して、幼保小の子どもや教職員の相互理解を推進し、円滑な移行と効果的な指導につなげた取組を発表。

・参加者の感想

子ども個々の情報や状況について引き継がれることを連携ととらえがちなが、資質能力の育成を継続していくために何をすることが大切だと改めて考えることができた。



○テーマ 2

主体的な学び、対話的な学び、そして深い学びを実現するための授業改善の取組 ～教科でつながる小中連携授業力向上支援事業の指定を受けて～

・発表

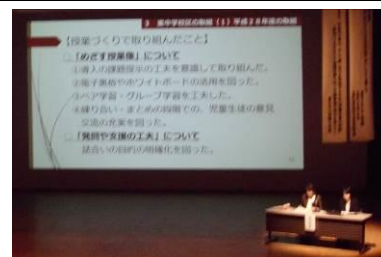
倉吉市立成徳小学校

・概要

中学校区において「めざす児童生徒の姿」や「めざす授業像」を共通理解し、授業づくりや授業実践に生かすとともに、校区内の相互参観や活発な研究協議をとおして授業改革を図った取組を発表。

・参加者の感想

深い学びにするためのポイントを学んだ。算数用語を使って説明するためには、教師と子ども、子ども同士の対話と練り上げが重要だと再認識した。



<分科会Ⅲ：安心して学べる学校教育の推進>

○テーマ1

中山間地域等における高等学校の魅力化・特色化について

・発表

鳥取県立青谷高等学校、鳥取県立岩美高等学校、
鳥取県立智頭農林高等学校、鳥取県立日野高等学校

・概要

自然環境や地場産業、文化芸術、人材等、その地域ならではの資源を生かし、社会に開かれた教育課程を工夫することによって魅力ある学校づくりを進める取組を発表。

・参加者の感想

地域を支える人材を出すこと(地域に残る人材の教育)が大切だと思った。地域連携を行う上で、専任の担当を置くことが必要ではないかと思った。



○テーマ2

障がい者スポーツを通じた交流及び共同学習の取組

・発表

鳥取県立鳥取盲学校、青翔開智中学校

・概要

ゴールボールやフロアバレーボールといった障がい者スポーツの体験やパラアスリートとのふれあいを通して、障がいのある生徒とない生徒との相互理解を進めた交流及び共同学習の取組を発表。

・参加者の感想

最初から無理と決めつけしないでやってみようという気持ちと、できるようにする工夫が大切だと強く感じた。



(3) 講演

○演題

「新学習指導要領が求める授業改革」

・講師

文部科学省初等中等教育局 視学官 澤井 陽介 氏

・概要

学習指導要領改訂にかかる社会的背景や、新学習指導要領の全体像とポイントについて具体的にお話いただいた。例えば、各教科等においては「内容」のみにとらわれないよう「目標+内容」で構成し資質・能力を重視していること、「見方・考え方」とは各教科等ならではの目の付け所や頭の働かせ方であり、子どもがその頭の働かせ方ができるように教師は授業改善をすることなどである。さらに、実際の授業の様子をとおして、「問い」の構成や資料提示、学習のまとめ等、問題解決的な学習の展開の工夫について講演いただいた。

・参加者の感想

新たな学びの形に向けて、子どもたちが課題を明確に持つこと、そのための課題の提示の在り方を見直し、そこからつながる主体的な学びの流れを通して子どもたちに力が付くよう、授業の在り方を改善していきたい。

それぞれの教科特有の見方・考え方ができるような問いをすることで、子どもたちが主体的に学ぶことができると分かった。授業の本質を見失わないように、授業を構成していきたいと思う。

